

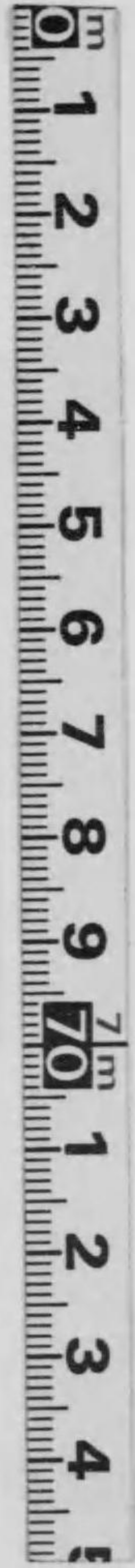
1421
478

東蘭印領 胡椒の生産と市場



南支那及南洋調査第六十二號

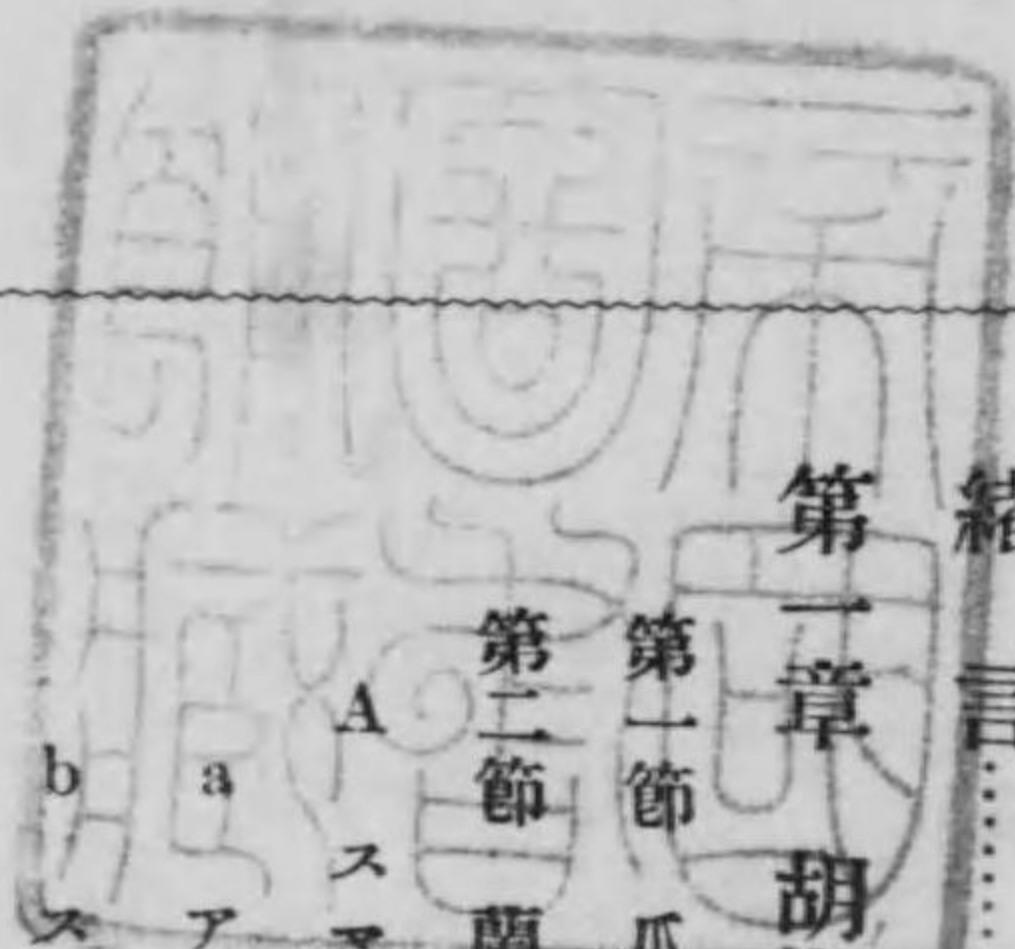
臺灣總督官房調査課



始



142h-478



蘭領東印度胡椒の生産と市場

目次

緒言.....一

第一章 胡椒生産地としての蘭領東印度.....一

 第一節 爪哇の胡椒輸出.....九

 第二節 蘭領東印度胡椒生産地と其取引.....九

 A スマトラ島.....九

 a アチエー州及其屬地.....九

 b スマトラ東岸州.....一

 c バレンバン州.....二

 d ランボン州.....三

 B リオ州及其屬地.....五

 C バンカ州及其屬地.....六

大正
11 11 22
寄贈

11
寄贈

一、本書は在爪哇農學士芳賀鐵五郎氏が、爪哇スラバヤ商業會議所の「市場週報」を基とし、自己の意見を加へ、數字の誤記は參考資料に依りて訂正し編纂せるものである

二、本書は執務並に閱覽の便宜上印刷を以て筆寫に代へたもので、敢て公刊するものでない

大正十一年九月

臺灣總督官房調査課

目次

二

D ビリントン州……………一八

E ホルネオ島……………一九

 a 西部ホルネオ州……………一九

 b 東南部ホルネオ州……………二一

 第三節 蘭領東印度胡椒輸出と海峡殖民地……………二四

第二章 胡椒積換港としての新嘉坡及び彼南……………二八

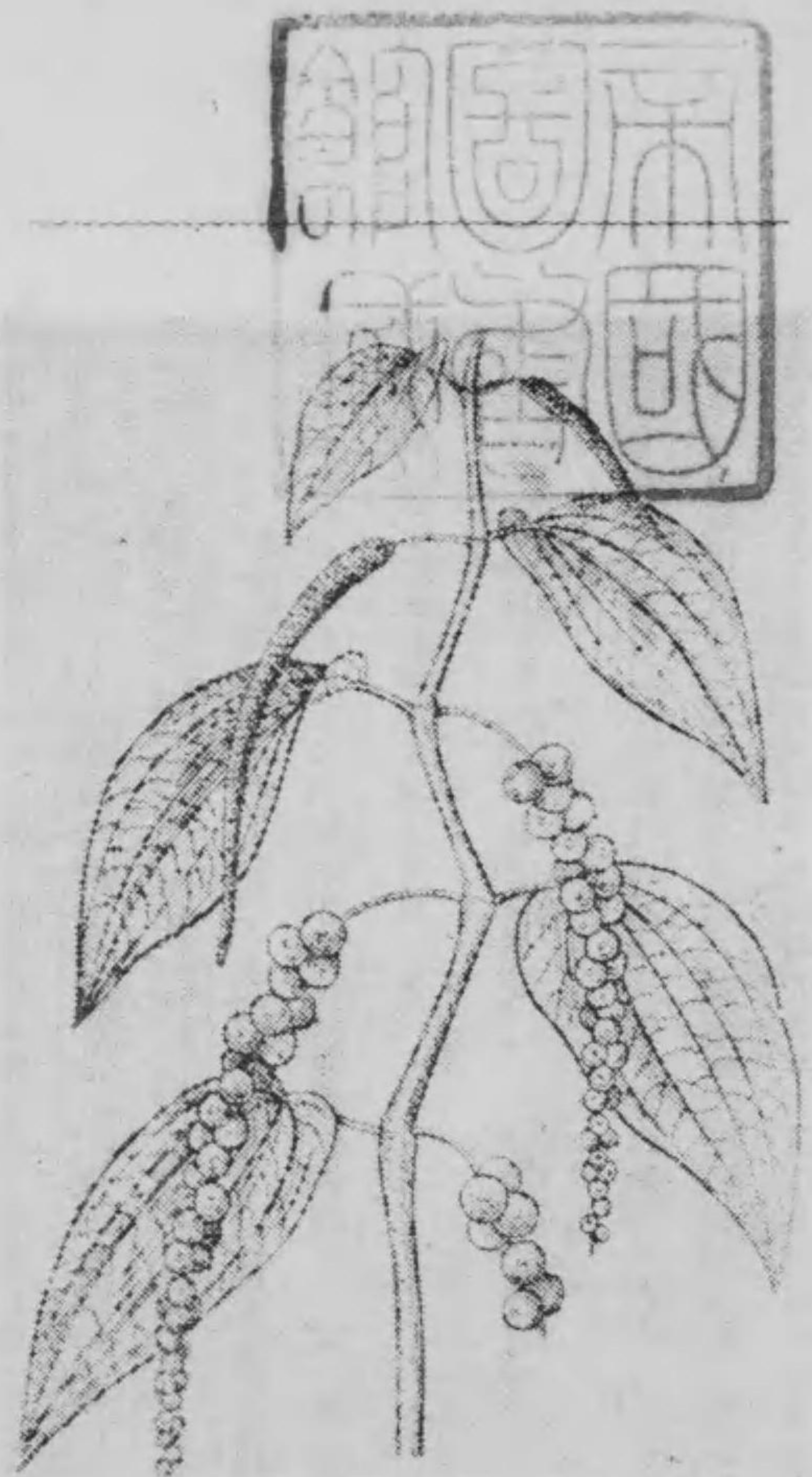
 第一節 黒胡椒輸出入……………三〇

 第二節 白胡椒輸出入……………三七

 第三節 長胡椒輸出入……………四二

第三章 蘭領東印度胡椒直接取引として擴張すべき市場……………四三

蘭領東印度胡椒の生産と市場



胡椒の花

胡椒は熱帯農産物の一にして古來より歐洲に知られ、大なる輸出品の一たりしものなり。其栽培法や加工法の如きは更らに稿を改むることなし、茲に極東に於ける胡椒の位置

緒言

を詳述し、重要な生産品たるを説き、合せて其市場状況を考究せんとす。
抑も、胡椒は熱帯植物にして赤道南北二十度の間に繁茂し、多年生の蔓性植物にして、

其幹は速に木質となり節を生じ、其節の部分は膨脹す。花は小さく白色なり。開花後は球形小果を著生し、最初には緑色を呈し、次に赤色となり、終に黒色となる。此小果實は漸次に成熟するを以て、一時に同一植物の果實を悉く收穫し得ざるものとす。

胡椒の栽培せらるゝは南東亞細亞全體に亙り、東印度群島(殊にスマトラ、北及び東南ボルネオ)、暹羅、マラバル地方、英領印度の或る部分、交趾支那及び馬來半島の或る地方(殊にジョホール)等なり。而して亦た其數量少なきも比律賓及び錫倫にも産出す。

以下胡椒生産地としての蘭領東印度及び胡椒積換港としての新嘉坡と彼南訖に蘭領東印度の新市場の三項に分ちて述ぶる處あるべし。

第一章 胡椒生産地としての蘭領東印度

蘭領東印度は主要なる胡椒生産地より遙に離れ居ると稱せらるれど、古來より多少の生産あり。近時世界の需要増加と共に、蘭領東印度の胡椒栽培の發展を見、將さに世界の生産地ならんとす。而してスマトラ島のアチエー及び其屬地訖にランボン地方は就中著名なり。リオ・リングガ群島及びバンカ訖にボルネオは之れに次いで産地たり。爪哇にありては珈琲園内に之れを間作として栽培しつゝあるを見る。

胡椒栽培は重要なる生産業にして、最近數年間に頗る發達し輕視すべからざるものとなりたり。今黑白二種の胡椒の輸出數量を表示して其動かすべからざる事實を證すべし。

蘭領東印度の胡椒輸出數量

年次	爪哇及マヅラ		外領地		合計	黑白二種 總合計
	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒		
一九〇五年	4,510	63	6,399	11,011	10,958	22,663
一九一〇年	9,555	2,433	11,211	11,211	11,406	32,689
一九一三年	5,310	2,026	6,115	7,151	11,443	18,955
一九一四年	8,344	1,947	7,966	10,544	12,310	32,559
一九一五年	6,799	769	7,568	10,544	17,533	33,349
一九一六年	7,999	1,340	8,778	10,878	16,777	33,559
一九一七年	9,669	2,371	10,878	10,878	20,756	36,026
一九一八年	10,155	1,716	9,894	11,544	21,009	35,899
一九一九年	10,355	3,544	11,054	11,054	22,009	40,214

備考 單位は噸、一噸は一千疋なり。以下單位は一噸に噸を以て示す。

右の數量を價額に算出するは稍や困難なり。年によりて其市價に高低あり。同一年に於ても時々價額に變動あるを以てなり。一九一九年に於てはランボン産の黒胡椒は最低二十

八盾にも最高五十六盾を示し、パンカ島ムントック産の白胡椒は最低五十九盾より最高九十五盾に達せり。之れは一擔の價額にして爪哇バタヅキアの市價なりとす。今前記一九一九年輸出數量の噸を擔に換算し其價額を表示すべし。但し六一・七六斤を一擔となせり。

一九一九年度胡椒輸出價額

種 類	數	量 (擔)	平均單價	總 價 額 (盾)
白胡椒	一〇八、七四三	五二四、五七九	四〇	二〇、九八三、一六〇
黒胡椒	一〇八、七四三	一〇八、七四三	七〇	七、六一二、〇一〇
合 計	六三三、三二二			二八、五九五、一七〇

蘭領東印度の胡椒輸出價額は、實に二千八百五十九萬盾を越ゆるを見るべし。如何に重要なる位地を占むるに至れるや茲に明瞭なるべし。

爪哇にありては胡椒は、副作物として栽培せらるゝのみにして重要視せられざるは已に述べたり。然るに外領地にありては主作物として栽培し、近時長足の進歩をなし、生産額頗る多く、一應爪哇の港に移入せられ、而して海外に輸出せらるゝもの亦甚だ多し。今一九一七年乃至一九一九年に於ける外領地より爪哇に移入せられたる胡椒の數量を其主産地別に表示すべし。

に表示すべし。

外領地より爪哇に移入せる胡椒數量 (噸)

生 産 地	一九一七年		一九一八年		一九一九年	
	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒
パンカ及其屬地	一、八〇一	四九八	二、九九四	六七一	二、九一八	四九四
西ボルネオ	四五	一一	一〇八	一五	一〇〇	一八
東南ボルネオ	四三二	六九八	五八	一六一	三八	一四四
アチエー及其屬地	—	—	—	三	—	—
ペングローレン	—	五三一	—	七二七	—	七七二
ランボン	—	七、五二七	—	一一、四〇〇	—	七、七二三
パレンバン	—	一八〇	—	二九四	—	七〇
其他の地方	六四	五	一四七	七	一〇四	七
合 計	二、三四二	九、四五一	三、三〇七	一三、二六八	三、一六〇	九、二二八

本表によりて外領地に於ける黑白二種の胡椒の各主産地を知り得べし。即ちパンカとボルネオ及びランボン地方が主要産地にして、パンカは白種を、ボルネオ、ランボンの二者は黒種を特に多く移出するを見るべし。而してスマトラのバンクローレン及びパレンバンの

二州は黒種のみを生産す。

第一節 爪哇と胡椒輸出

蘭領東印度は内領地と外領地とに分ち、爪哇及びマヅラを前者に入れ其他の大小の群島を後者に含ましむ。余は煩を避くる爲め爪哇及びマヅラを單に爪哇と稱せんと欲す。以下本文に記さるゝ爪哇なる名稱は即ち内領地たる爪哇及びマヅラを意味なるものなり。

前記の如く爪哇の生産なる胡椒の數量は論ずるに足らざる程少量なるも、外領地より移入せられ而して海外に輸出せらるゝもの少なからず。其移入の全部殆んど皆な輸出せらるゝと稱して可なるべし。左に黑白二種に分ちて其輸出狀況を述べん。

(一) 白胡椒。前項に於て外領地より爪哇に移入せらるゝ數量を表記せしが、之等の數量は更らに世界各國に輸出せらる。一九一三年より一九二〇年に至る八年間の白胡椒輸出數量と其仕向地を記せば左の如し。

爪哇の白胡椒輸出數量(噸)と其仕向地

和	仕向地	年								
		次一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	
蘭		七五七	二,一四三	六三三	—	—	—	—	七九五	三,五七五

和	仕向地	年								
		次一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	
獨逸		—	—	—	—	—	—	—	—	九六
英吉利		二八	—	—	—	—	—	—	—	三,四九〇
北米合衆國		—	—	—	—	—	—	—	—	四七
濠洲		—	—	—	—	—	—	—	—	三九
其他		一七	三	—	—	—	—	—	—	一五
合計		二,〇八	一,二四九	六九	一,一四〇	二,一四〇	一,七二六	三,六五三	—	一,六二二

前の世界大戰は北米合衆國に直輸出の途を開き、濠洲亦た白胡椒市場の需要者として現れ爪哇より直接に其供給を受けたり。一九一三年には獨逸は白胡椒の主要なる顧客たりしも、大戰の結果市場に全く其影を沒せり。然れども一九二〇年に再び現れて九六噸を輸入したり。最近數年間和蘭は大戰前の如く甚だ多量の白胡椒を取扱へり。

(二) 黒胡椒。次に掲ぐる表は最近數年間爪哇より輸出せる黒胡椒の數量と其仕向地とを明にすべし。

爪哇黒胡椒輸出數量(噸)と其仕向地

和	仕向地	年								
		次一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	
蘭		三,八五五	三,九三五	二,二四〇	—	—	—	—	四,六六一	—

英吉利	北米合衆國	新嘉坡	支那	日本	日	濠洲	其他	合計
三三	三六	一一三	二四				七三	五三〇
九〇	一四六	一一四	四〇				四二	八三四
九七九	三二二	九五	三〇				二四六	六七九
四〇	五三〇	六二	九七				六二	七九九
三三	八四六	五〇	六二				二五	九六九
一	八九三	三〇	二二				一七	一〇三五
四九六	六〇七	二四	四四				一七	一〇三四
四〇	一六六	三九六	五〇				九〇	七五二

黒胡椒も亦た白胡椒の場合の如く歐洲大戦の間には歐洲には其販路を失へり。北米合衆國と濠洲とは爪哇より直接其供給を受け大戦終結後に至りて歐洲に再び多量の輸出を見るに至れり。新嘉坡にも大戦中は稍や其輸出數量を減じたりしが大戦終結後は舊時の状態に恢復せり。

バタヴィアのタンジョン・プリオクは爪哇の再輸出港と云ふべし。是れ外領地より來る胡椒の一大部分は該港にて積換へ更らに海外に輸出せらるゝを以てなり。而して前已に述べたる如く各生産地より輸出胡椒の爪哇に送られざるものは直に新嘉坡に輸出し次に海外各方面に分配せらるゝなり。

第二節 蘭領東印度の胡椒生産地と其取引

蘭領東印度に於ける胡椒の主産地は外領地にしてスマトラ島、リオ群島、バンカ群島及びボルネオ等即ち之れなり。各地の生産と取引狀況を述ぶる處あるべし。

A スマトラ島

ハ アチエー州及其屬地

アチエー州はスマトラ島の北部にあり。當地方に於ける胡椒栽培は殆んど土人の手によりに營まれ、歐洲人に經營せらるゝ胡椒園はブル・ウキーに唯だ一箇所存するのみなり。當地方生産の胡椒は蘭領東印度の他地方に移出せらるゝものあれど頗る少量なり。其一部分はスマトラの東海岸に輸出せらるゝも云ふに足らぬ微量なり。全生産額は殆んど海外に輸出せらるゝものにして、白胡椒は重要ならざるも黒胡椒は當地方海外輸出品中重要な位地を占む。今一九一三年より一九一九年に至る輸出統計を示せば左の如し。

アチエー州胡椒輸出統計 (噸)

年次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
海外市場輸出總額	七七〇	七〇三	七〇三	三三六	四三三	五一四	四三二

其中彼南輸出額	三三四四	三三九四	四〇三四	三三六七	四三四九	四七九九	三五四七
---------	------	------	------	------	------	------	------

アチエー州の主要輸出港は北及び東海岸にあるものにして、一般に胡椒輸出港と稱せらる。而して此等の港より搬出せらるゝ黒胡椒の貿易状況は次に掲ぐる税關の記録統計によりて知り得べし。

アチエー州主要港黒胡椒輸出統計 (噸)

年	次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
ラ	Langsa	一四六六	一四六〇	一五二一	一七四三	一八五五	三三二九	一六五九
シ	Sigi	八三	六八	七五	六四	七五	一三九	六九
イ	Idi	六三	五五	五二	三六	六四	六三	七三
ウ	Odee Lheue	二二	一八	三六	一	二九	三五	三三
ロ	Lho Seirawak	二四〇	三〇八	三〇九	三七三	五〇六	五五八	三七一
チ	Tjalang	二五	二二	二〇	一四八	二〇〇	一七四	一六
メ	Meulaboh	八三	五三	八四	二六	二四	一六	二九

生産物の賣買は市場に於てせられずして栽培地に於て行はる。故に少しも競争を存せず前貸金の悪弊を生ず。

b スマトラ東岸州

本州の胡椒栽培はアチエー方面より傳播したるものにしてアチエー人種が行ふものなり。さればアチエー人種の居住する地方に主として之れを見るべし。胡椒の種類もアチエー州のそれと同じく黒胡椒なり。

本州の一九一三年乃至一九一九年の胡椒輸出統計は左の如し。

アチエー州胡椒輸出統計 (噸)

年	次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
海外市場輸出總額		一三三三	一〇九二	一〇七二	八三三	一三三三	一三九一	六四〇
其中彼南輸出額		一三三九	一〇一一	九六	八七〇	九七七	一八三	三三

一九一八年までは、其輸出額の殆んど全部は彼南に輸出せられたるも其後は多く新嘉坡に仕向けらるゝに至れり。即ち一九一八年には一、一〇六噸一九一九年には六〇六噸の輸出を見たり。

本州より爪哇及び他の蘭領に移出せらるゝものは少量にして特に記するの價値なし。

栽培地の所在地たるが爲め輸出せらるゝ胡椒の又部分はバンカラン・ブランドン (P. B. B.)

Kalang Brandan)に集注し、而して此より殆んど全部海外に輸出せらる。一九一三年乃至一九一九年の輸出數量は左の如し。

一九一三年	一、二一三噸
一九一四年	一、〇〇九
一九一五年	九四八
一九一六年	八四三
一九一七年	一、〇三七
一九一八年	一、二〇九
一九一九年	五九四

ブラワン・デリ (Belawan Deli) よりも少しく輸出せられたり。即ち一九一五年には六二二噸、一九一七年には九八噸、一九一八年には八一噸、而して一九一九年には四六噸なり。

c. バレンバン州

本州より海外に出づる胡椒はバレンバンより搬出せらる。而して一九一三年乃至一九一九年の黒胡椒輸出數量(噸)を示せば左の如し。

一九一三年	二、〇三八噸
一九一四年	一、四六一
一九一五年	二、三五三

一九一六年	一、九二〇
一九一七年	一、四四〇
一九一八年	三二七
一九一九年	二、〇七四

バレンバン州は胡椒の主産地と稱すべきもバレンバン港附近に産するものにあらずして コメリン・ウル、オガン及びレマタン・インル地方 (Komering Oeloe, Ogan & Lematang) より集來するものを輸出するなり。バレンバンより爪哇に多少の移出するものあるは已に述べたる處なり。

d. ランボン地方

本地方に於ける胡椒栽培は頗る重要な生産業にして蘭國政府歳入の大根元なりとす。栽培家が其生産胡椒を販賣するに其方法宜きを得ず、諸種の弊害發生するを以て、之れを改善し其弊を除去せんが爲めにテロク・ベトン (Telok Betong) に近きタンジョン・カラ (Tandjong Karang) に胡椒取引所を開設し、中間の買手と賣手とを排除せり。此の取引によりて栽培家は其生産物を買手に直接供給をなし其價額等の變動に自ら關與し得べし。而して此の地方の輸出品も亦だ殆んど全部黒胡椒なり。

本州より爪哇に移出する胡椒は頗る多量にして、爪哇の輸出胡椒には重要な位地を占

むるは已に述べたる事實によりて知了したり。
本州より蘭領の他地方に輸送せらるゝもの必らずしも少なからず。而して主としてバレンバンに行くものたるは已に記したる處なり。

ランボン州より一九一三年乃至一九一九年に於て海外に輸出せられたる黒胡椒の數量は左表の如し。

ランボン州黒胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年次	
	一九一三年	一九一四年
新嘉坡	三	二四
和蘭	一三三	六二
北米合衆國	三	三六
合計	一四六	一四八
		一九一五年
新嘉坡		一
和蘭		五四
北米合衆國		一五
合計		五九
		一九一六年
新嘉坡		一
和蘭		一
北米合衆國		五
合計		六
		一九一七年
新嘉坡		三
和蘭		一
北米合衆國		一
合計		五
		一九一八年
新嘉坡		一
和蘭		一
北米合衆國		一
合計		三
		一九一九年
新嘉坡		一五
和蘭		四九
北米合衆國		五七
合計		一二一

如上の外に一九一五年には直接佛國に一八二噸、英國に六〇二噸、香港に一六噸の輸出を見たれども他の年には此等の國には輸出皆無なり。而してランボン州唯一の輸出港は蓋しテロツク・ベトンなりとす。

白胡椒の輸出は黒胡椒のそれに比すれば僅少にして特に記するの價值なし。而して爪哇への移出量も甚だ少量なり。

大戦前にありては米國仕向品は和蘭を經由したるも、戦時中には之を廢止し、現今は米國は蘭領東印度より直接其供給を取る事になりたり。

B リオ州及其屬地

リオ群島に於ける胡椒は支那人の栽培する處にして、一般にガンビールと共に栽培せらる。其貿易は自由港なる新嘉坡を經由して行はる。爪哇及び他の蘭領東印度への移入は頗る少量なれば記するの要なし。今リオ州より海外市場に輸出したる統計を掲ぐれば左の如し。

リオ州胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年次	
	一九一三年	一九一四年
新嘉坡	白胡椒 六三	白胡椒 九
	黒胡椒 三	黒胡椒 一三
其他の仕向地	和蘭 アムステルダム	和蘭 アムステルダム
合計	白胡椒 一一九	白胡椒 一〇〇
	黒胡椒 九七	黒胡椒 一三三
		一九一五年
新嘉坡		白胡椒 八三
		黒胡椒 三
其他の仕向地		和蘭 アムステルダム
合計		白胡椒 八三
		黒胡椒 一八
		一九一六年
新嘉坡		白胡椒 一六
		黒胡椒 一
其他の仕向地		和蘭 アムステルダム
合計		白胡椒 一六
		黒胡椒 一
		一九一七年
新嘉坡		白胡椒 二四
		黒胡椒 一五
其他の仕向地		和蘭 アムステルダム
合計		白胡椒 二四
		黒胡椒 一五
		一九一八年
新嘉坡		白胡椒 二七
		黒胡椒 八
其他の仕向地		和蘭 アムステルダム
合計		白胡椒 二七
		黒胡椒 八
		一九一九年
新嘉坡		白胡椒 一八
		黒胡椒 一四
其他の仕向地		和蘭 アムステルダム
合計		白胡椒 一八
		黒胡椒 一四

本州の主なる輸出港は新嘉坡の對岸ピンタン島(Pintan)のタンジョン・ピナン(Tandjong Pinang)と稱する蘭領東印度に於ける唯一の自由貿易港なり。而して本州生産の白胡椒は全部、黒胡椒は殆んど全部同港より搬出せらる。

C バンカ州及其産地

本州に於ける胡椒栽培は漸次進歩發達をなしつゝあり。土人が支那人に倣ひ之れを栽培するに至り殊に著しく其面積を擴張せり。其生産物は直接爪哇に移出し外領地に對しては主としてバレンバン及びピリトンに移出するを見る。海外輸出亦た少なからず。今爪哇及び外領地への移出數量を示せば左の如し。

バンカ州胡椒移出統計 (噸)

外領地	仕向地	年次	
		次	年
爪哇	白胡椒	一、八〇一	一九一八年
	黒胡椒	四九八	一九一八年
外領地	白胡椒	七九	一九一八年
	黒胡椒	五二	一九一八年
爪哇	白胡椒	二、九四四	一九一九年
	黒胡椒	六七一	一九一九年
外領地	白胡椒	七七	一九一九年
	黒胡椒	七七	一九一九年
合計	白胡椒	一、八八〇	
	黒胡椒	五五〇	
	合計	三、〇二一	
		七四八	
	合計	三、〇四〇	
		五六五	

而して海外輸出數量を示せば左の如し。

バンカ州胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年次	新嘉坡		其他		合計
		白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	
新嘉坡	一九一三年	一、〇〇〇	二二二	—	—	一、二二二
	一九一四年	一、九四〇	四〇二	—	—	二、三四二
其他	一九一五年	一、九五四	二六	—	—	二、〇二〇
	一九一六年	二、六二六	六三	—	—	二、七〇九
合計	一九一七年	缺	缺	缺	缺	—
	一九一八年	一、九六四	六〇六	九	—	二、五七九
合計	一九一九年	一、九〇八	七三三	—	—	二、六四一
		—	—	—	—	—

本州より輸出せらるゝ胡椒は全部新嘉坡に仕向けらるゝものなるを知るべし。主要なる搬出港はスンガイ・リアト(Songai Liat)ムントク(Muntok)及びプリンユー(Pelintjo)にして此等の各港別搬出數量を次に掲げん。

パンカ州主要港別胡椒搬出統計 (噸)

搬出港	年次		一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年		一九一九年	
	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒
スンガイ・リアト	三五〇	三五	三五〇	三五	三五七	六	四七	八五	九三	七三	一八	七〇	一八	七〇	一八	七〇
プリンユー	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ムントク	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
合計	三五〇	三五	三五〇	三五	三五七	六	四七	八五	九三	七三	一八	七〇	一八	七〇	一八	七〇

D ビリトン州

ビリトン州はパンカ州の東にあり、同名の島と其附属小島より成る。本島に於ける胡椒栽培は頗る小規模に經營せられ白胡椒のみ搬出せらる。爪哇及び他の外領地への移出は不明なり。本島唯一の搬出港はタンジョン・パンダン (Tandjong Panahan) にして其輸出數量を示せば左の如し。

ビリトン州胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年次		一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年		一九一九年	
	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他	新嘉坡	他
總輸出額	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

E ボルネオ島

西部ボルネオ州

西部ボルネオに於ける胡椒栽培は近時著甚なる進歩を來し、黑白二種共に其産額を増加するに至れり。而して此等の生産物は殆んど皆な海外に輸出せらる。爪哇への移出額は已に述べたるが如く僅少なり。蓋し蘭領群島内への移出は記するに足らざるものとす。

當地方の主要なる胡椒栽培地はサンパス (Sampas) 及びランダク (Lantak) にして殊にサンパスは之れが輸出港たり。胡椒栽培園は特に平坦地又は緩傾斜地を選びて盛に擴張せられつゝあり。之れ作物根部の土壤洗滌し去らるゝを防ぎ得るのみならず、附近の水流を容易に利用灌漑し得べく以て灌漑費を節約し能ふが爲めなり。

生産物の取引は直接行はれず仲間者を存せり。即ち普通支那人が栽培者に前資金を與へ其生産物を買収するなり。然れども自己の資本を有するものは自ら之れを地方に販賣す。

一九一三年以來輸出統計を示せば左の如し。

西部ボルネオ州胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年		新嘉坡	其他	合計
	次	年			
新嘉坡	白胡椒	一九一三年	五五七		
	黒胡椒	一九一三年	六		
其他	白胡椒	一九一三年		一四	
	黒胡椒	一九一三年		一	
合計	白胡椒	一九一三年	五五七	一四	五七一
	黒胡椒	一九一三年	六	一	七
一九一四年	白胡椒	一九一四年	八五四		
	黒胡椒	一九一四年	二六		
一九一五年	白胡椒	一九一五年	一三五五		
	黒胡椒	一九一五年	二二		
一九一六年	白胡椒	一九一六年	一五七七		
	黒胡椒	一九一六年	二二		
一九一七年	白胡椒	一九一七年	二二三		
	黒胡椒	一九一七年	三三		
一九一八年	白胡椒	一九一八年	一九二四		
	黒胡椒	一九一八年	三八		
一九一九年	白胡椒	一九一九年	二〇〇九		
	黒胡椒	一九一九年	六〇一		

而して本州胡椒輸出港即ちサンパス及びバマンカット(Pamanakat)ポンテアナ(Pontianak)シンカワン(Singawin)等の各港別に輸出額を示せば左の如し。

西部ボルネオ州搬出港別胡椒輸出統計 (噸)

輸出港	年	次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
サンパス	白胡椒		三六〇	四四四	七九三	九七四	一三四九	一〇二一	一〇九七
	黒胡椒		四〇	七	三	一	一九	四一	一五三
バマンカット	白胡椒		二二八	八	一五	一六九	一五	一五	一七六
	黒胡椒		一	三	一	一	一	一	三
ポンテアナ	白胡椒		三	九	二七	三三	五四八	四七五	四四七
	黒胡椒		一	一	二	一	三	一〇	二九
シンカワン	白胡椒		一	二四四	一九四	二八	二七〇	三三六	二八七
	黒胡椒		一	二八	六	一	一〇	六	九

如上二表によりて、本州胡椒輸出に於て白胡椒は、一九一三年以來殆んど四倍となり、黒胡椒は五倍以上になりたり。而して此等の胡椒は新嘉坡を唯一の仕向地となし、サンパスは白黒二種の胡椒の主要輸出港たるを見るべし。

b 東南部ボルネオ州

本州の胡椒栽培は近時長足の進歩をなし、其生産品は白種は次第に減少し、黒種其量を増加するに至れり。而して其輸出地は新嘉坡なり。今一九一三年以來の輸出數量は左の如し。

東南部ボルネオ胡椒輸出統計 (噸)

仕向地	年次		新嘉坡	其他	合計
	一九一三年	一九一四年			
白胡椒	四六九	二九五	三六	六	五二
	三三	三六			
黒胡椒	一	一	一〇	五	一五
	一	一			
合計	四七〇	二九一	四六	一一	五八
	三三	三六			

當州産胡椒は殆んど悉く新嘉坡に輸出せらるゝを見るべし。而して其輸出港はラウト島 (Laot) のコタ・バル (Kota Baroe) やボルネオ本島バリト河の支流マルタブーラ河畔に存在するバンジャルマシ (Bandjermasin) なりとす。ラウト島には蘭人の栽培する胡椒園もあり、近來著しく發達し其品質も頗る優良なり。今此等二港別に其輸出額を示せば左の如し。

東南部ボルネオ州搬出港別胡椒輸出統計 (噸)

輸出港	年次		白胡椒	黒胡椒	合計
	一九一三年	一九一四年			
コタ・バル	四六四	三〇一	五二	四八	五三
	一四二	一七			
バンジャルマシ	一〇	五	一	一	二
	一〇	一			

本州よりは又た長胡椒の輸出あり。其數量を示せば左の如し。

東南部ボルネオ州長胡椒輸出統計 (噸)

輸出港	年次		白胡椒	黒胡椒	合計
	一九一三年	一九一四年			
バンジャルマシ	七六	九	一六	三六	一六
	一	一			

長胡椒はバンジャマシ地方に生産し、全部同港より輸出せられ、其仕向地は新嘉坡なり。而して前表によりて大戦中其輸出數量次第に増加したるを見るべし。之れ其價騰貴の爲め栽培面積激増したるが故なり。蓋し本州は長胡椒の唯一生産搬出地たり。

タナンプ (Tanahboe) 地方は本州に於ける胡椒主産地にしてラウト島及びチャン

トゥン (Thunong) の如きにありては實に特殊の生産業たるに至れり。
 本州に於ける白胡椒は黒胡椒の産額著しく減少したる時に多額の輸出をなせり。而して其輸出港はコタ・バルーなり。コタ・バルーは亦だ黒胡椒の主なる輸出港なり。

バリト河の支流ネガラ (Negara) の上流にアムンタイ (Amuntai) と稱する一村あり。胡椒生産の中心地にして栽培者は其生産物を毎週開かるゝ市場にて貿易商に販賣す。一度生産者の手を離るれば、之れを輸出するまでの凡ての取扱は貿易商のなす處なり。因にアムンタイ地方は又た米の主産地たり。

タナブンブ地方にては已記の如くラウト島が胡椒の主産地にして、栽培者は其生産物をコタ・バルーに普通自ら搬出し之れを支那人卸商に販賣するものとす。

第三節 蘭領東印度の胡椒輸出と海峽殖民地

吾人は前項に於て蘭領東印度の胡椒生産と其輸出に關する概要を知悉したり。而して本項に於ては蘭領東印度の胡椒總輸出額と海峽殖民地への輸出額と如何なる關係を有するかを説明せんと欲す。

前項に記載したる諸統計表を見るに、蘭領東印度の所謂外領地より輸出する黒白二種の胡椒の大部分は新嘉坡と彼南とに行き、爪哇は彼南には黒胡椒を輸出するも白胡椒を輸出

せず。然れども新嘉坡には黒白二種を輸出す。

蘭領東印度の海外に輸出する胡椒の總額と、其中新嘉坡及び彼南に仕向けられたる數量とを比較し、其比率數量を表示すれば左の如し。

蘭領東印度胡椒輸出總額と海峽殖民地への輸出額比率表 (噸)

年	次		一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年		一九一九年	
	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒
海外總輸出額	四四八三	一四八三	五〇〇九	一六〇〇	四八六六	一七三六	六五三三	二〇七五	七二七一	五八七二	二〇〇九	五八七二	七二七一	二〇〇九	五八七二	七二七一
海峽殖民地仕向額	二二八四	八八七	三二九	七六四	四二二	八九二	五三三九	一八六八	四八八八	四一三五	一〇一六	四一三五	四一三五	一〇一六	四一三五	四一三五
海峽殖民地仕向額の總輸出額に對するパーセント	五三	六	六	四八	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五

總輸出額の半以上は海峽殖民地の新嘉坡及び彼南に仕向けらるゝものたるを知るべし。更らに又た蘭領東印度中其外領地よりの胡椒總輸出額と其中海峽殖民地に仕向けらるゝものとの比率を左に表示すべし。

蘭領東印度外領地胡椒輸出總額と海峽殖民地への輸出額比率表 (噸)

年	海外輸出總額		海峽殖民地仕向額		海峽殖民地仕向額の總輸出額に對するパーセント
	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	
一九一三年	二四三五	九一八	二三八四	七七五	六九
一九一四年	三三三三	七九六	三二八七	六七〇	七五
一九一五年	四〇九七	一〇五七	四〇七六	七九八	九二
一九一六年	五二四三	八七八	五二九四	八三四	九二
一九一七年	四九〇〇	一〇八七	四八八二	一〇七八	九六
一九一八年	四一五四	九八四	三九五五	九八〇	九六
一九一九年	四〇六三	一〇四三	四〇五七	一〇九五八	九二

備考 止むを得ざる以外は端数を切捨てたり

上記の數字を出来るだけ詳細に記さんが爲めに爪哇及マヅラ即ち内領地と外領地とに區別し、更らに之れを彼南、新嘉坡の仕向別に表示すれば左の如し。

爪哇及び外領地胡椒輸出の新嘉坡並に彼南仕向額統計 (噸)

年	新嘉坡	
	白胡椒	黒胡椒
一九一三年	一	一
一九一四年	二	一
一九一五年	三	一
一九一六年	三	一
一九一七年	六	一
一九一八年	二九	一
一九一九年	二五	一

爪哇輸出額	外領地輸出額	
	仕向 爪哇	仕向 外領地
白胡椒	一三三	二二
黒胡椒	一三六	一
白胡椒	九五	一
黒胡椒	六三	三六一
白胡椒	六五〇	二
黒胡椒	三六〇	一
白胡椒	二二四	一
黒胡椒	二二七	一

上記の表によりて爪哇即ち内領地より輸出する胡椒は新嘉坡に仕向けらるゝも彼南は全く之れを受けざるを見るべし。換言すれば蘭領より彼南に輸出せらるゝ胡椒は凡て其外領地より來るものとす。

蘭領東印度輸出の白胡椒の新嘉坡に來るものは主としてボルネオ、リオ、バンカ及びピリトンの外領地より搬出せらるゝものにして、殊にボルネオ産白胡椒の如きは殆んど全部新嘉坡に輸出せらる。而して黒胡椒もまた新嘉坡に輸出せらるゝも唯たスマトラ産のもののみは主として彼南に至るものとす。

第二章 胡椒積換港としての新嘉坡及び彼南

抑も新嘉坡及び彼南の二港は南洋一帯に生産せらるゝ胡椒に對して其集散中心地なり。主要生産地より輸出せらるゝ胡椒は先づ此等二港に來りて北米、歐洲及び濠洲等の各地に輸出せらる。而して胡椒生産地の第一位を占むるものは蓋し蘭領東印度とす。

新嘉坡は爪哇、ボルネオ、スマトラ及び他の蘭領東印度群島、並にサラワック、佛領交趾支那、馬來聯邦及び他の馬來諸州暹羅等の生産物を輸入し之れが積換港たり。彼南はスマトラ、暹羅、馬來諸州殊に聯邦諸州の供給に對する積換港なり。

白胡椒は殆んど全部新嘉坡を經由して世界に搬出せられ、黒胡椒も亦た同港に於て積換へ輸出せらる。彼南は漸く新嘉坡に次ぐの胡椒積換輸出港なり。是れスマトラ胡椒の大部分を輸入するを以て其位地を維持するものとす。長胡椒は蘭領東印度よりのみ生産せらるるものにして、全く新嘉坡へのみ輸入せられ本港より世界の需要地に搬出せらるゝなり。

新嘉坡、彼南二港間の國內貿易は興味ある數字を現はす。此取引は彼南より新嘉坡へと赴くの傾向あり。而して彼南の輸出數字は新嘉坡の數字と能く一致するを認むべし。

然り而して新嘉坡及び彼南の胡椒輸出積換港として重要な位地にあるを明瞭ならしむ

るべく一九一三年以來の胡椒輸出入の統計を次に記すべし。

新嘉坡及び彼南胡椒輸出入統計 (擔)

年次	種別		合計	年次	種別		合計
	輸入額	輸出額			輸入額	輸出額	
一九一三年	新嘉坡	一五七、七六六	二五、七〇二	一九一四年	新嘉坡	一六六、三三〇	二六、〇〇〇
	彼南	一〇、一三三	八、九		彼南	一〇、一三三	八、九
一九一五年	新嘉坡	一八三、三三三	三三、五五三	一九一五年	新嘉坡	一八三、三三三	三三、五五三
	彼南	一〇、一三三	八、九		彼南	一〇、一三三	八、九

年次	種別		合計	年次	種別		合計
	輸入額	輸出額			輸入額	輸出額	
一九一六年	新嘉坡	一五七、七六六	二五、七〇二	一九一六年	新嘉坡	一五七、七六六	二五、七〇二
	彼南	一〇、一三三	八、九		彼南	一〇、一三三	八、九
一九一七年	新嘉坡	一八三、三三三	三三、五五三	一九一七年	新嘉坡	一八三、三三三	三三、五五三
	彼南	一〇、一三三	八、九		彼南	一〇、一三三	八、九

種 類	年 次		種 類	年 次		種 類	年 次		種 類	年 次		
	一	九		一	八		一	九		一	九	一
輸入額	新嘉坡	一五、四八六	白胡椒	七、八三六	合計	二五、四〇三	黒胡椒	二六、五七三	白胡椒	九、八八五	合計	三三、三二七
	彼南	六、〇九〇		三		六、九一八		五、九八〇		一三		五、九九四
輸出額	新嘉坡	三、九〇五	長胡椒	四、二七	合計	三、四一七	黒胡椒	二、九三三	白胡椒	六、八八三	合計	三、三三三
	彼南	一、三九一		四		一、四三九		三、〇〇三		二〇		三、三三九

備考 一九二〇年に於ける数字は未だ手に入らず。

第一節 黒胡椒輸出入

前記の統計表によりて新嘉坡及び彼南の取扱へる胡椒は白種より黒種が重要な位地を占むるを認むべし。而して蘭領東印度の生産する胡椒も亦た白種より黒種が多量なりとす。今左に新嘉坡と彼南の黒胡椒の總輸入額と蘭領より搬入せる同種數量と並べ而して前者に對する後者のパーセントを表示すべし。

新嘉坡及び彼南黒胡椒輸入統計 (擔)

年 次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

種 類	新嘉坡		彼南		總計のパーセント
	右の中間領より の輸入額 パーセント	黒胡椒輸入總額	右の中間領より の輸入額 パーセント	黒胡椒輸入總額	
一九一三年	一、七七六	一、七七六	一、〇六一	一、〇六一	六四
一九一四年	二、五九三	二、五九三	一、〇八五	一、〇八五	六三
一九一五年	一、五八八	一、五八八	一、〇三〇	一、〇三〇	六九
一九一六年	一、五〇一	一、五〇一	九〇二	九〇二	七〇
一九一七年	一、八二〇	一、八二〇	八五七	八五七	六六
一九一八年	一、七四八	一、七四八	六九〇	六九〇	六四
一九一九年	二、三三七	二、三三七	五八二	五八二	六三

前表により胡椒貿易港としての彼南は若し蘭領東印度よりの輸入なかりせば現在の如き重要な位地を保ち得ざるを見るべし。新嘉坡も亦た一九一九年には黒胡椒貿易額の四分三は實に蘭領より輸入せられたるものとす。而して彼南の蘭領より輸入したる黒胡椒はスマトラより來れるものにして、新嘉坡も同じく同島産のものを輸入すれども爪哇經由の品多し。

蘭領東印度より新嘉坡に輸入する黒胡椒の數量を各搬出地別に示せば左の如し。

新嘉坡の蘭領東印度より輸入する黒胡椒數量搬出地別統計 (擔)

搬出地	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

合 計	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
ポルネオ	六、二四四	五、七〇七	五、〇一一	二、三三三	四、八四〇	四、三七七	五、一四七
爪哇	二、四八四	二、五〇八	二、三三三	一、一九九	一、〇五九	六、四三七	五、五七三
スマトラ	四、〇八五	二、九七九	五、〇一四	四、一七五	二、五八〇	二、六四〇	六、二八一
其他の蘭領東印度	五、〇〇八	六、三四八	五、七三三	一、三三六	一、四八四	一、二四四	一、四〇五
合 計	一七、七六一	一六、五二二	一八、一六五	九、〇七〇	一〇、〇三三	一四、〇五八	一八、三三七

備考 一九一三年の合計は従前の数字と異なるも不明なれば訂正する能はず。

蘭領東印度以外に猶ほ數箇の黒胡椒搬出の中心地あり。而して此等の地は又た其生産地とも稱し得べし。サラワック、馬來聯邦州、非馬來聯邦州、交趾支那及び暹羅即ち是れなり。いづれも皆な主として新嘉坡に搬出す。

如上各地より新嘉坡及び彼南二港に搬出する黒胡椒の數量を記せば左の如し。

蘭領東印度以外の新嘉坡及び彼南へ黒胡椒搬出數量統計 (擔)

搬出地	年							
	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	
サラワック	八、四三三	六、八六五	二、二三八	一、九三九	三、八七七	二、三九四	二、二九七	
新嘉坡	—	—	—	—	—	—	—	
彼南	—	—	—	—	—	—	—	

馬來聯邦	年							
	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	
新嘉坡	六、〇七七	四、三三八	一、五九	一〇〇	三、八	一、六	四、五	
彼南	九、八	一、五三	—	—	—	—	—	
非馬來聯邦	—	—	—	—	—	—	—	
新嘉坡	—	—	—	—	—	—	—	
彼南	—	—	—	—	—	—	—	
交趾支那	—	—	—	—	—	—	—	
新嘉坡	—	—	—	—	—	—	—	
彼南	—	—	—	—	—	—	—	
暹羅	—	—	—	—	—	—	—	
新嘉坡	—	—	—	—	—	—	—	
彼南	—	—	—	—	—	—	—	

蘭領以外の主要胡椒産地はいづれも新嘉坡には巨額の搬出をなせど、彼南には皆無なるあり、又少量なるあり。是れ位置の然らしむる處なりとす。暹羅と馬來諸州のみは新嘉坡と彼南の二港に搬出しつゝあり。而して暹羅の前記年間に彼南に輸出したる數量は其以前の數字に比すれば甚だ少量なり。又た交趾支那の一九一九年に於ける新嘉坡輸出額は其前年よりは頗る減少せるを見る。

西貢の輸出統計によれば、蘭領東印度より輸入したる黒胡椒の大部分は、同地より更らに佛國に向け直接移出せらるゝは大戦前と異同なし。

以上列挙せる其他の黒胡椒生産地は英領植民地にして、其生産物は凡て新嘉坡を經由して世界各方面に輸送せらるゝは何等驚くに足らざるべし。

叙上の如く南洋一帯の主要なる胡椒産地の生産物は、其大部分は海峡植民地に輸送せられ、此處に積換へられて世界各國に更うに輸移出せらる。數量の巨額に達するは吾人注目

の價値なくんばあらず。
獨逸と埃地利とは大戰以來世界市場より失はれたり。獨逸は一九一三年には新嘉坡より一九、七八〇擔彼南より二、九三四擔、又た一九一四年には前者より六、〇六六擔後者より二、九四二擔を輸入したり。埃國は一九一三年には新嘉坡より二八、八一二擔彼南より一、〇二三擔輸入し、ダニユーフ王國(匈牙利王國?)は一九一四年に新嘉坡より一二、五三〇擔彼南より四、〇二四擔輸入せり。

英國、北米合衆國、香港、支那、佛國、埃及等は黒胡椒に對する大なる顧客たり。今此等諸國への新嘉坡と彼南の輸移出數量を左に示すべし。

新嘉坡及び彼南黒胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年									
	次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年		

英吉利	新嘉坡		北米合衆國	香港		支那	佛蘭西		埃及
	彼南	新嘉坡		彼南	新嘉坡		彼南	新嘉坡	
新嘉坡	四四八八	二九〇九七	二五、五九九	二六、四五六	三、四一七	八九二八	二、六六三	一、二六六三	
彼南	六七七八	三八八七	四八三	三、一五九	七、九四四	六、六三八	六、五五四		
新嘉坡	二五、〇二一	一三、〇七五	二五、三六一	一三、二二六	一、〇七九	一、〇七九	一、〇七九		
彼南	二、四九二	一、一三三	二、六九四	四、六三三	一、〇七九	一、〇七九	一、〇七九		
新嘉坡	二、四四三	三、八三三	一、〇七九	二、五八〇	四、六三三	一、〇七九	一、〇七九		
彼南	二、九三三	八、六五	一、〇七九	三、八	一、〇七九	一、〇七九	一、〇七九		
新嘉坡	一、三三六	一、三九四	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六		
彼南	一、七〇	二、四三	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇	一、七〇		
新嘉坡	八、八七	九、九	九、九〇	一、三三三	三、一四一	一、三三三	一、三三三		
彼南	八、八七	九、九	九、九〇	一、三三三	三、一四一	一、三三三	一、三三三		
新嘉坡	七、二六〇	三、四三二	一、〇七九	五、九二一	一、九〇六	一、一七〇	一、一七〇		
彼南	六、〇七	四、三三	七、一七	一、九	一、九〇六	一、一七〇	一、一七〇		

右の表によりて新嘉坡、彼南の二港に集來せる黒胡椒は世界の如何なる地方に、而も幾何の數量が各地に搬出せらるゝものなるかを知りたり。

濠洲及び新西蘭に新嘉坡より輸送せらるゝ數量も注目の價値あり。其統計を左に示すべし。

濠洲及び新西蘭仕向新嘉坡の黒胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年									
	別	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	新西蘭	濠洲
新西蘭	二四	二六	三三	二六	二九	二六	二九	二七	二七	二七
濠洲	二六三	二五二	二三五	二二六	二二六	三三六	一四三	三三〇	二六三	二五二

如上二地方に對する輸出は、蘭領東印度より直接航路の存在するあれば、新嘉坡に一旦輸出し積換をなして輸送するよりも、直に之れを輸出し得ざる道理なかるべし。此の事項に關しては更に項を改めて論ずる處あるべし。

黒胡椒の取引を其仕向地に關し猶は述ぶる處あらしめよ。

露國は大戦に次で革命を來し遂に胡椒市場とは全く絶縁せるも、其國情にして普通の状態に恢復するに至らば大戦前の如き大なる消費地となるべし。新嘉坡より同國に輸出せられたる數量を示せば一九一三年には二五、二五七擔、一九一四年には一一、七一六擔、一九一五年には二五、四三八擔、一九一六年には一八、二四四擔、一九一七年には三、三三四擔ありたり。而して其後は皆無なり。

又た英領印度、伊太利及び西班牙の三國も黒胡椒の大なる輸入地にして、就中伊太利の如きは最も重要な位地を占む。

伊太利、英領印度及び西班牙への新嘉坡及彼南黒胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年										
	別	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	伊太利	英領印度	西班牙
伊太利	新嘉坡	三六五	二二〇	九三	六八九	一七五	九六五	四三二	新嘉坡	八八八	二九八
	彼南	一〇一〇	一〇一〇	五〇五	—	—	—	—	彼南	四六〇	二二五
英領印度	新嘉坡	八八八	二九八	一五九	一六九	二二六	一四五	一〇〇	新嘉坡	二九七	一〇六
	彼南	四六〇	二二五	八三	八三	五九	一八	二七	彼南	六三	六三
西班牙	新嘉坡	二九七	一〇六	五九	一六	—	—	—	新嘉坡	六三	一五〇
	彼南	六三	六三	一五〇	三三	—	—	—	彼南	—	—

第二節 白胡椒輸出

新嘉坡及び彼南の二港に輸入せらるゝ白胡椒の數量を示し、並せて此の二港に對する蘭領東印度の輸出關係を明にすべく左に之れが統計表を掲げん。

新嘉坡及び彼南白胡椒輸入統計 (擔)

年次	新嘉坡		彼南		總計のパーセント
	白胡椒輸入總額	右の内蘭領よりの輸入額	白胡椒輸入總額	右の内蘭領よりの輸入額	
一九一三年	八二六八	四九六六	六九	六九	五三
一九一四年	八八二七	五三六五	二六	二六	六〇
一九一五年	一〇八六〇	六六六五	六	六	六二
一九一六年	一〇八六六	七三三六	七	七	七二
一九一七年	四八六三	七二七	六	六	六三
一九一八年	六三三六	六三六四	三	三	六三
一九一九年	六八八五	七三三	三	三	六六

右の表によりて白胡椒の全輸入に對する蘭領よりの輸入比率は黒胡椒のそれよりは多大なるを見るべく、彼南は總數量少なるも蘭領よりの輸入比率は頗る多大にして、殆んど全部蘭領輸入品たるを知るべし。

蘭領東印度よりの白胡椒輸入なるものは、主としてボルネオ及び群島の他の部分より來るものにして、スマトラ及び爪哇よりも搬出せらるゝは已に記したる處なり。今新嘉坡へ輸出せられたる白胡椒の詳細なる仕譯表を示せば左の如し。

新嘉坡の蘭領東印度より白胡椒輸入統計 (擔)

搬出地	年次	
	一九一三年	一九一九年
蘭領ボルネオ	一八六四五	五、八〇八
爪哇	五三	七、五五五
スマトラ	八、七五五	七、六八〇
其他の蘭領東印度	一六、七六六	三、三六九
合計	四三、九六六	二〇、四一二

彼南に輸入せらるゝ白胡椒は、已に記したる如く七年間の中僅に一年間丈、而かも僅少の他地方よりの供給を除きては凡て全部蘭領東印度より來れるものなり。

新嘉坡に輸入せらるゝ白胡椒の大部分は、蘭領より搬出せられたるものなれど、猶ほ他の生産地より供給を受くるものあり。其の搬出地及び其數量を表示すれば左の如し。

蘭領東印度以外より新嘉坡へ白胡椒輸入統計 (擔)

搬出地	年次	
	一九一三年	一九一九年
サラワット	七、五三三	一八、二三五
馬來聯邦	三	一

其他の馬來諸州	交趾支那	暹羅
1	1	1
1	4,268	1,081
75	2,547	210
20	1	43
1	1	5
1	1	76
1	1	285

右の表によりて蘭領外より新嘉坡へ白胡椒を輸出するもの、中、サラワックのみは漸く蘭領に次ぐの數量を輸出するを見る。暹羅は少なく交趾支那は永く皆無にして馬來聯邦及び非馬來聯邦よりの輸出は頗る少量なり。

而して新嘉坡より更らに輸出せらるゝ白胡椒の需要地は、黒胡椒と同じく大戰開始後は獨逸及埃地利は少しも其供給を仰がざりしが、一九一九年に至りて舊時の關係稍恢復せられて二一、六三五擔の輸入を見彼南よりも亦た四、九三七擔を輸入するに至れり。

白胡椒の主要なる消費地は英國、北米合衆國、及び濠洲と新西蘭なり。今此等諸國に輸出する其數量を示せば左の如し。

新嘉坡及び彼南白胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年	
	次	一
英吉利	新嘉坡	10,134
	彼南	4,699
新嘉坡	1913	5,753
	1914	5,553
新嘉坡	1915	5,668
	1916	6,636
新嘉坡	1917	4,944
	1918	1,700
新嘉坡	1919	2,860
	1920	5,000

北米合衆國	濠洲		新西蘭
	新嘉坡	彼南	
新嘉坡	1,683	5,036	1,344
新嘉坡	1,205	5,311	2,400
新嘉坡	1,178	1,178	1,594
新嘉坡	3,699	5,520	3,699
新嘉坡	7,465	3,833	1,943
新嘉坡	2,534	2,534	1,008

備考 ×は九、六九〇なるべしと思はるゝも参考資料の儘記す

殘餘の市場を見るに彼南よりの輸出數量甚だ少なく特に記述するの必要なし。然れども一九一三年乃至一九一五年には和蘭と伊太利への輸出は除外となすべし。今其數量を左に記さん。

彼南の伊太利及和蘭への白胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年	
	次	一
和蘭	1913	3,957
	1914	2,530
伊太利	1913	2,398
	1914	926
伊太利	1915	929
	1916	929

新嘉坡よりは是れに反して猶ほ主なる輸出地あり。即ち蘭伊佛支那其他香港加奈陀英領印度等なり。左に輸出量を示すん。

新嘉坡の白胡椒輸出統計 (擔)

仕向地	年									
	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年			
英領印度	九九九	六二二	一〇八六	一〇三三	一〇八一	一〇八一	一七六二			
加奈陀	一六七〇	一六八〇	二三四三	三三三三	二二〇五	四三三〇	一〇八八			
香港	二一九	三三〇	二四〇	五九二	七〇七	三六三	四四七			
佛蘭西	二二六	五〇	二二九	三三三	二〇八	四七九	六九七			
支那	一八九	四六	一	三三	一〇八	九七	一九九			
伊太利	一七九	二一九	五〇四	一	五七	九七	一九九			
和蘭	一七九	二一九	五〇四	一	五七	九七	一九九			
伊太利	七九	三四二	一六四	四二五	一八一	四一〇	一〇九六			

第三節 長胡椒の輸出入

長胡椒は世上の注意を引くこと少なく、需要も黑白二種に比すれば少なく、且つ其の生産量も多からず。而して長胡椒唯一の生産地は蘭領東印度にして、殊にボルネオを以て名産地と稱すべきなり。

長胡椒の需要地としては英領印度を以て第一となす。其輸入額は年平均三四百擔なり。

殘餘は香港に仕向けらる。一九一三年には北米合衆國のみにて三三九擔を輸入せり。

第三章 蘭領東印度胡椒直接取引として擴張すべき市場

叙上に於て新嘉坡の胡椒積換港として如何に重要な位地にあるかを詳述したり。是に依て其商品の大部分は蘭領より輸出せられたるものなるを知りたり。吾人は本項に於ては其の供給を多年蘭領東印度より直接取引し、其生産地と密接なる關係ある海外市場の一二につき考究する處あらんとす。

世界に於ける胡椒の消費地にして、爪哇と直接に船舶の交通を有するにも拘はらず其の大部分の胡椒を一應新嘉坡に出し、更らに積換へて輸送しつゝあるものあり。而かも其航路たるや爪哇の直航路よりは遙かに遠距離たり。濠洲の如き即ち是れなり。又た北米合衆國の如きも考慮の價値あるべし。

濠洲は黑白二種に區別せる胡椒輸入統計を有せざるは甚ぞ遺憾なりとす。故に爪哇及び新嘉坡の統計數字を再び参考に供せざるべからず。一九一三年乃至一九一五には濠洲は爪哇より胡椒を輸入せざりしも一九一六年より直輸入をなしたり。左に之れを示すべし。

濠洲の爪哇より胡椒直輸入統計 (噸)

年次	年次		年次	年次		年次	年次	
	白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒
一九一六年	一六〇	一一	一九一七年	二五一	三二	一九一八年	四二五	三五
一九一八年	四二五	三五	一九一九年	三〇六	四五	一九二〇年	三二九	二二
合計	一七一	一七	合計	二八三	四六〇	合計	三五一	三五一

右に示されたるものは多くはランボン胡椒してパンカ胡椒も僅かに含まれり。
一九一三年乃至一九一九年に互る七年間に、濠洲及び新西蘭が新嘉坡より輸入したる胡椒の數量は左の如し。

濠洲及新西蘭の新嘉坡より胡椒輸入統計 (擔)

年次	年次		年次	年次		年次	年次	
	白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒
一九一三年	八三四	一三四	一九一四年	九六七	二五〇	一九一五年	五九四	二二五
一九一六年	五五〇	二二五	一九一七年	七四六	二四〇	一九一八年	三八五	二〇九
合計	一七四	一四	合計	二五四	二二	合計	一三三	二七

年次	年次		年次	年次		年次	年次	
	白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒
一九一三年	一三二	二八	一九一四年	一四九	六九	一九一五年	一〇一	二五
一九一八年	七五	一五	一九一九年	七五	一五	一九二〇年	三〇	八
合計	三九	三九	合計	三九	三九	合計	三九	三九

備考 本表の數字は彼南輸出のものも合算したるものとす
一九一五年濠洲輸入九、九四二は已掲白胡椒の項には六九〇とあるものに比すれば大なる差あるも茲に記入の數字正確ならんと思はる。對照すべし。

以上掲げたる表を比較し見るに、濠洲に對する爪哇よりの胡椒直接輸出は次第に増加し、新嘉坡よりのそれは次第に減少しつつあるを認むべし。

又た北米合衆國に對する爪哇よりの直接輸出數量を示せば左の如し。

北米合衆國の爪哇より胡椒直輸入統計 (擔)

年次	年次		年次	年次		年次	年次	
	白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒		白胡椒	黒胡椒
一九一三年	一	三六	一九一四年	五	一四六	一九一五年	元	三二
一九一八年	六八	一六二	一九一九年	八四	一四六	一九二〇年	七	一六
合計	三六	一四六	合計	一〇八	一〇八	合計	一〇八	一〇八

猶ほ同年間に新嘉坡及び彼南より北米合衆國に輸出せる數量あり。即ち左の如し。

新嘉坡及び彼南の北米合衆國へ胡椒輸出統計（擔）

年	白胡椒		黒胡椒		合計
	新嘉坡	彼南	新嘉坡	彼南	
一九一三年	二六八三三	五〇三六	二五〇九三	二二四九三	五九五〇二
一九一四年	二二〇二五	八三三	二三八九元	二一五三	五六〇八九
一九一五年	二四九〇〇	一一七八	二四三六三	二六九四	八七五八四
一九一六年	二五九八四	二一〇	三三四六	四六三	四三四五三
一九一七年	二六九五	—	一〇七五〇	一六	一四九九〇
一九一八年	一九四八三	—	二九〇四六	—	二八五二八
一九一九年	一〇〇八	八五	三二四四	三五四	三三六二
合計	二〇〇八	八五	二〇〇八	三五四	二〇〇八

然れば、胡椒貿易の状態を概観するに、蘭領東印度群島外領地生産の胡椒にして海外に輸出せらるゝものは凡て皆新嘉坡に仕向けらるゝものたるを知るべし。而して濠洲及び新西蘭と北米合衆國とに輸送せらるゝものを、爪哇よりするものと、海峽殖民地よりするものとに區別し比較對照すれば左表の如し。

濠洲及び新西蘭と北米合衆國仕向海峽殖民地並に爪哇の胡椒輸出統計（噸）

年	次	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
爪哇	—	—	—	—	—	—	—	—
海峽殖民地	—	—	—	—	—	—	—	—
北米合衆國	—	—	—	—	—	—	—	—

年	濠洲及新西蘭		北米合衆國	
	海峽殖民地	爪哇	海峽殖民地	爪哇
一九一三年	七九	—	三三〇	三三六
一九一四年	八四	—	三三五	一四七
一九一五年	八九五	—	五二二	二二八
一九一六年	六三	—	二〇七	六二二
一九一七年	七二	—	八九八	一〇〇九
一九一八年	四五二	—	九五三	九八三
一九一九年	三九	—	八六	六八〇

此の比較表によりて濠洲及び新西蘭と北米合衆國に對する海峽殖民地よりの輸出は次第に減少するの傾向あるも、爪哇よりのそれは次第に増加しつゝあるを見るべし。猶ほ外領地より北米に直接輸出するものはランボン産のみなり。而して該地よりは定期の航海ありて規則正しく輸送せらるゝものにあらざるなり。今ランボン地方よりの北米直輸出の數量を示せば左の如し。

北米合衆國仕向ランボン胡椒輸出統計（噸）

年	次	數量
一九一三年	—	六二
一九一四年	—	三四六
一九一五年	—	一、一六五
一九一六年	—	五二六

一九一七年	—	六一
一九一八年	—	—
一九一九年	—	五三七

蘭領東印度の胡椒生産地たる各主要地方は、爪哇を經由すれば濠洲には固より北米間に對しても近距離の直接航路を發見し得べきなり。ボルネオ、スラバヤ、濠洲間の航路はボルネオ、新嘉坡、濠洲間の航路に比すれば著しく短距離なり。而して一九一七年乃至一九一九年に西及東南ボルネオ二州より海外及び爪哇に輸移出したる數量は左の如し。

蘭領ボルネオの爪哇及海外仕向胡椒搬出統計 (噸)

年	次		一九一七年		一九一八年		一九一九年	
	爪哇に	海外に	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒	白胡椒	黒胡椒
東南ボルネオ	爪哇に	海外に	四三二	六九八	五八	一六一	四九	一七二
	白胡椒	黒胡椒	五五	二、五七二	三六	二、〇四五	五七	二、七二〇
西ボルネオ	爪哇に	海外に	二、二三二	三七三	一九二四	三二八	二、〇〇九	四〇二
	白胡椒	黒胡椒	一一二	四五	一〇八	一五	一〇〇	一八
合	計	爪哇	海外	一九一七年	一九一八年	一九一九年		
		一、一八七	五、二三二	三、四二二	四、三三三	三、三三九	五、一八八	

右表の海外市場と稱するは特に新嘉坡を意味するものとす。而して從來説明せる處によりボルネオより輸出せらるゝ胡椒の數量は、やがて濠洲に於ける需要數量と一致し居るを見るべし、茲に於て因習的新嘉坡輸出を次第に中止し、直接濠洲に輸送するべく努力する時は、永き間には全く新嘉坡經由は皆無となりて直接輸出の實現するに至るべきを信せざるべからず。

北米合衆國に對する胡椒の直接輸送も亦た同じ例にして必らず其成切を見るの日あるべし。已にランボン及びパンカ二州の胡椒の直輸出せらるゝものあるにわらずや。其數量の決して輕視し得べからざるは既に説明したる處なり。

最近數年間にボルネオの胡椒栽培は著甚なる發達をなし、蘭領東印度の胡椒業の位地に大なる變化を來したり。其取引に於ても自ら多少の變化を伴ふは言を俟たず。斯業者も政府當局も此際蘭領東印度自身に取りて有利なる方向に展開せしむるは緊急事たらずんばあらず。

1421
178

是れに反してスマトラ生産の胡椒はランボン地方のものを除きて之れを濠洲又は北米に輸出するものと雖ども蓋し新嘉坡を其積換港となすを有利と認む。而して歐洲仕向のものも亦た同じ。即ち新嘉坡、彼南を其積換港として其關係を繼續せらるべし。

要之、蘭領東印度の胡椒海外輸出は適切なる直接輸送の絶對的必要なるを認めざるべからず。(終り)

終